

井原市役所 様

User Profile



井原市役所
所在地：岡山県井原町311番地1
面積：243.54キロ平方メートル
人口：41,390人
世帯数：14,914世帯
(平成27年国勢調査より)

概要：井原市は、岡山県の西南部に位置し、西は広島県に接しています。高梁川支流の小田川が、地域の南部を西から東へ貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されています。また、北部は、標高200~400メートルの丘陵地帯で吉備高原へと続いています。地域の面積は、243.54キロ平方メートルで、地形的には井原市街地を除いては、ほとんどが山々に囲まれた農山村です。全体的に温かな気候に恵まれ、年間平均気温は約13~15℃、年間降水量は1,200ミリメートル前後となっています。平成17年3月1日、生活・経済・交通圏などで密接な結びつきのあった、井原市、後月郡芳井町及び小田郡美星町の1市2町が合併し、現在の「井原市」が誕生しました。

郵便物発送の人的負荷軽減を目的に 郵便料金計器「SendPro P2000」を導入 集計業務の自動化と管理でも大幅な効率化を実現

デニムの産地、星の美しい町として知られる岡山県井原市。井原市役所では日々の郵便物発送の集計業務に関わる人的な作業負荷が課題となっていました。そこでピツニーボウズ郵便料金計器を導入。集計業務を自動化すると共に、管理業務においても大きな業務効率化を実現しました。

日々の大量の郵便物の集計と 人的な管理負荷が課題

井原市は、岡山県南西部、広島県との県境に位置します。デニム生地の工場、ジーンズの縫製・加工工場などが集まる「産地」として知られ、高品質な国産ジーンズの生産のほか、2017年7月にはフランスで開催された「ジャパンエキスポ・パリ 2017」に井原市として初参加するなど、海外の高級ブランドからも注目されています。また、日本三選星名所に選ばれた美星町は、日本で初めて光害防止条例を施行・実施した町として有名です。

井原市役所では、日々発送される各種郵便物の集計作業の人的な負荷を削減するべく、ピツニーボウズの郵便料金計器を導入。大きな効果が得られました。

導入前の課題について、井原市役所 総務課課長補佐(兼)総務係長 片井啓介氏は、次のように話します。「市役所では時期にもよりますが、日々、納税通知書をはじめとするおよそ1,000通近い郵便物が発送されます。我々総務課では各課から持ち込まれる郵便物のとりまとめと集計、郵便局への持ち込みを担当します。毎日、15時を目処に各課から持ち込まれた郵便物の通数、種別の分類、郵便料金、割引適用処理などの確認と集計に、かなりの作業負荷がかかっていました。総務課では各種相談対応や代表電話の対応、選挙時の事務局などさまざまな業務があり、人員が削減される一方で「働き方改革」への対応も迫られる中、この日々の郵便対応にマンパワーが割かれるのは非常に負担です。また、郵便局への持ち込み後もグラム数が違うなどのやりとりや、集計表の修正作業に加え、月次での各課への

報告業務が発生していました。」

その折に同市はピツニーボウズからの提案を受け、興味を持ちます。実際に動作を確認したい、とデモを依頼。ピツニーボウズによる実機デモを体験した際の印象は「瞬時に計って料金も印刷され、あとは出すだけ。担当部署が流すだけで管理人員も不要となり、これであれば現状の悩み、負担を解消できると確信しました。」(片井氏)とのことです。

予算申請について片井氏は、「全国的な人口減少で税収が減る中、管理的な予算は確保しにくいものではありませんが、日々の労力や導入後の削減効果、モレやミスもなくなり、各課での対応が可能になることで内部管理に人員を割く必要がなくなり、その分市民サービス向上にシフトできるメリットを説明して、理解が得られました。」と話します。同市では平成29年度の予算要求、導入郵便局側との調整を経て、2017年5月から運用を開始しました。

郵便物の集計を完全自動化 人的工数削減に加え、 正確な集計もメリット

導入にあたっては、ピツニーボウズによる操作説明会を実施し、「複雑な操作もなく基本的にオートでいける」(片井氏)ことから、スタッフにもスムーズに受け入れられたとのことです。導入後の効果について、片井氏は次のように話します。「まず、各課の持ち込みの際に郵便料金計器により通数と郵便料金のカウントと仕分け、そして集計までが自動化されました。管理側は郵便局へ持ち込むだけで済み、日々の確認と集計作業が不要になったことは、非常に大きな工数削減で

井原市役所 様

す。各担当者の作業においても、これまでは計量しにくい微妙な重さの場合に郵便料金がいくらだろう、という迷いもなくなり、正確、確実なカウントが可能になりました。料金にミスがあると月次集計の際に差異が発生し、遡っての確認と各課との調整作業も大変だったのですが、導入後にはそれともなくなりました。」

また、導入効果は、郵便物発送の自由度が増す点でも大きいとのこと。「これまでは集計をしていた都合上、郵便局への持ち込み時間が決まっていた。急ぎの場合は各課が切手に対応していましたし、逆に、締め切り時間に間に合わずに発送が翌日になってしまうこともありました。郵便料金計器の導入によって正確に料金がカウントでき、郵便料金のスタンプも押されませんので切手不要でポストへ投函できます。郵便物の発送がフレキシブルになり、各課での切手の管理も必要なくなったのは、大きな効果です。」(片井氏)

費目の事前登録による 経理処理削減など、 機械化ならではの効果を実感

郵便料金計器の集計機能について、その利便性と効果を片井氏は次のように話します。「これまで総務課でエクセルの集計表を作成し、月次で取りまとめた後、各課ではそれに対して費目を分類する作業が必要でした。今回、導入にあたってピツニーボウズに相談して、あらかじめ費目項目を登録してもらったので、カウント時に費目の分類までが完了することで、支払処理にも非常に有効です。万一、カウント時にミスがあっても取り消し処理ができる点も便利です。今後、郵便料金の改定時も自動でアップデートしてくれるので安心です。さらに、人が張り付いていなくても誰がいつ、どのボリュームの郵便物を投函したのか、といった履歴データが残るのも、管理側としては非常に有効と感じています。」

確かな効果を実感 小さな組織こそ自動化を検討すべき

今後の展開として、片井氏はインクジェットプリント機能の活用を挙げる。「将来的にはインクジェットプリント機能で、見やすく、目立つ封筒によるPR効果を検討したいと考えています。」

最後に、片井氏は導入の総括と、ピツニーボウズへの思いを語ってくださいました。「当初の目的であったマンパワーの削減という点では確実に大きな効果がありました。働き方改革が叫ばれる中、サービスを向上しつつ人員が増やせないのであれば、不要な作業を減らすか、自動化するしかありません。中でも郵便は業務的には軽く見られがちですが日々、それなりのボリュームがあります。一方で、料金体系が明確なので、機械による自動化がしやすく、処理削減でスタッフの負担を下げやすい分野だと思います。組織の大小に関わらず、郵便物の管理におけるマンパワーを削減できるのは大きなメリットです。もともと割ける人員が少ない、我々のような小さな組織こそ、導入すべきソリューションであると感じています。ピツニーボウズさんは我々の質問や相談にすぐに回答いただけ、対応にも満足していますし、この機器を紹介させていただいてありがたかった、の一言です。」

SendPro™ P2000 導入事例



井原市役所
総務課課長補佐(兼)総務係長
選挙管理委員会 事務局次長
片井 啓介氏

